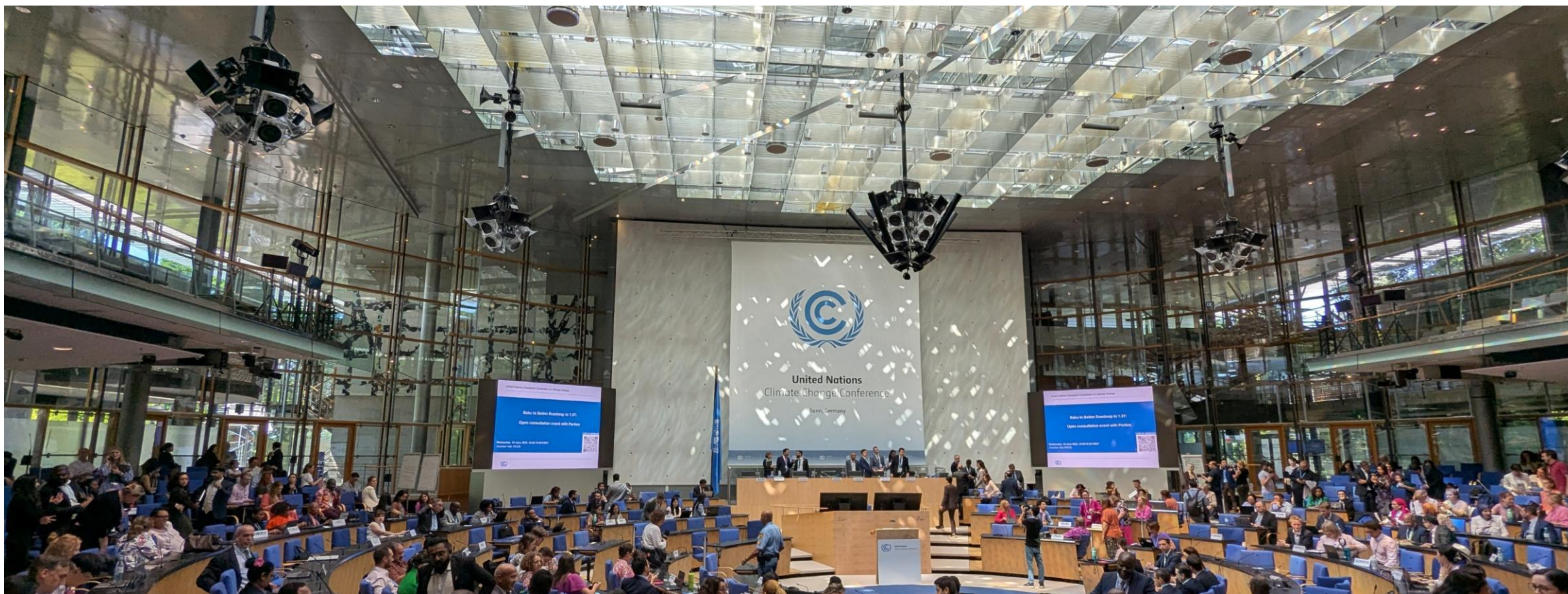


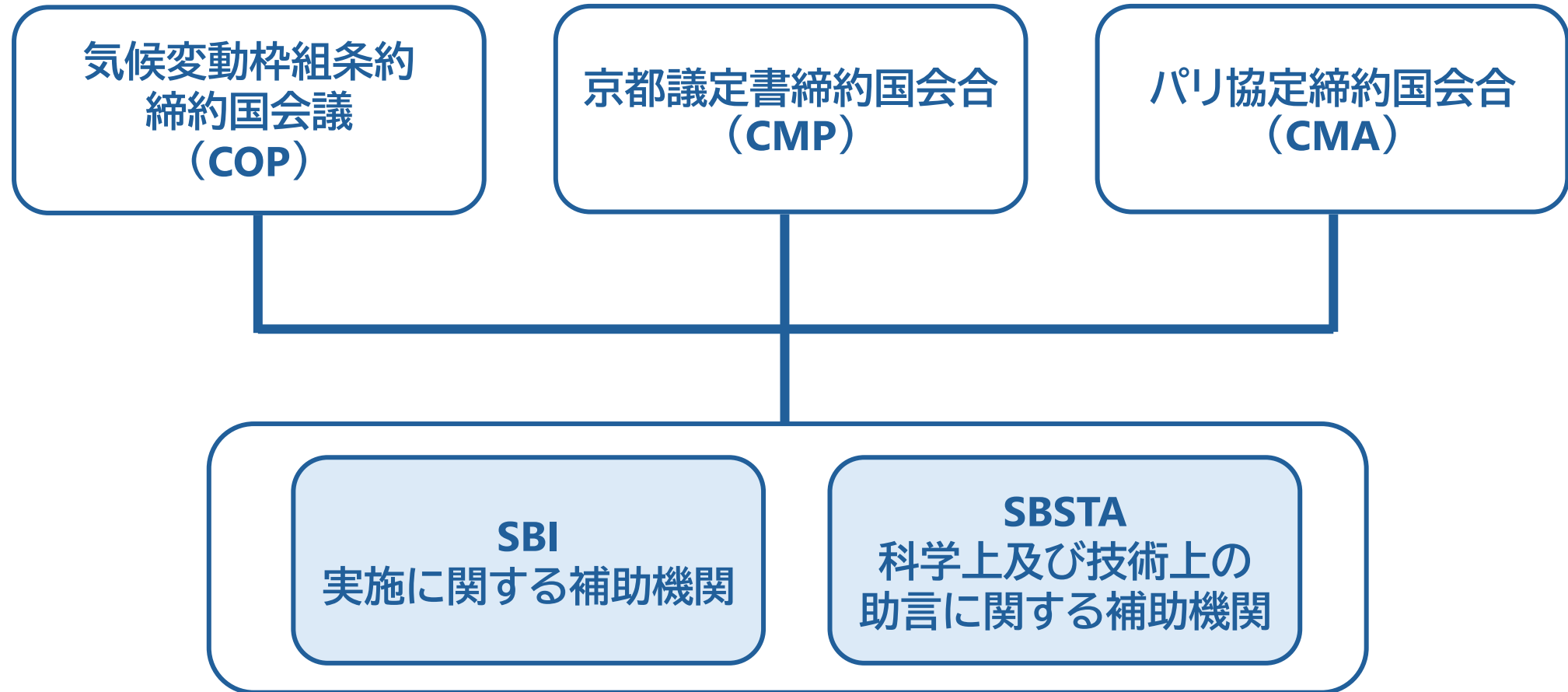


SBの概要と論点

2025年7月18日 CAN-Japan主催 SB62報告会

気候ネットワーク 田中十紀恵

補助機関会合とは



気候変動枠組条約のもと設置された補助機関の会合(年に2回開催)
SB会合からの提言は、COP決定に大きく影響

COP29からCOP30へ

2024年

● 11/11-24 COP29/CMP19/CMA6(アゼルバイジャン・バクー) ※SB61も開催

2025年

● 2/10 NDC(国が決定する貢献)の提出期限→9月まで延長

● 6/15-17 G7首脳サミット(カナダ・カナナスキス)

COP30に向けた
準備会合

● 6/16-26 気候変動枠組条約第62回補助機関会合(SB62、ドイツ・ボン)

● 9/9-23 国連総会(アメリカ・ニューヨーク)

● 11/10-21 COP30/CMP20/CMA7(ブラジル・ベレン) ※SB63も開催

● 11/22-23 G20サミット(南アフリカ)

気候変動をめぐる国際情勢

2025年は世界の気候変動対策の取り組みにとって節目となる一年

- 京都議定書発効(2005年)から**20年**
- パリ協定の採択(2015年)から**10年**
- COP26グラスゴー気候合意(2021年)で述べられた「決定的に重要な10年」の折り返し

気候変動をめぐる国際情勢

- 気候危機の深刻化:排出ギャップにどう取り組むか
- アメリカ・トランプ政権のパリ協定脱退、気候変動対策の打ち切りや化石燃料回帰
 - 正式な脱退は2026年だが、SB62にアメリカ政府代表団は参加せず
 - G7首脳宣言においても「気候変動」が主要議題から外れる
- ウクライナやガザなどでの人道危機は続く。脆弱な人々に被害が集中してしまう気候変動と構造を同じくする問題として、NGO・市民団体は各国政府に訴え

議長国ブラジル: グローバルなMutirão(共同作業)に向けて

COP30とSB62における3つの相関する優先課題

- 気候変動枠組条約に基づく多国間主義と気候変動レジームを強化すること
 - 気候レジームと人々の現実の生活をつなぐこと
 - パリ協定の実施を加速するため、貢献できる全ての機関が行動と構造調整を促進すること
- ➡相互に関連している目標を達成するためには、コミットメント以上のもの、つまり考え方や協力の仕方を変えていくことが必要

SB62の3つの重点分野

- 適応に関する世界全体の目標(GGA)／UAE・ベレン作業計画での指標づくり
- グローバル・ストックテイク(GST)の成果の実施に向けたUAE対話
- 公正な移行作業計画(JTWP)

Third Letter from the Presidency

<https://cop30.br/en/brazilian-presidency/letters-from-the-presidency/third-letter-from-the-presidency>

議長国による「COP30アクション・アジェンダ」がSB期間中に発表される

6つの分野と30の主要な目標(key objectives)を設定

<6つの分野>

- I. エネルギー、産業、運輸のトランジション
- II. 森林・海洋・生物多様性の保全
- III. 農業、食料システムのトランジション
- IV. 都市、インフラと水のレジリエンス構築
- V. 人材の養成と社会開発
- VI. 分野横断的な課題—資金、技術、能力開発を含む実現手段(enabler)や加速要因(accelerators)を引き出す

➡公正な移行と公平性の倫理的・科学的原則によって導かれる必要がある

Fourth Letter from the Presidency

<https://cop30.br/en/brazilian-presidency/letters-from-the-presidency/fourth-letter-from-the-presidency>

SB62の主な議題、イベント等

緩和	緩和作業計画(MWP)
適応	適応に関する世界全体の目標(GGA) 指標に関する「UAE・ベレン作業計画」のワークショップ★ など
公正な移行	公正な移行作業計画(JTWP)
GST	第2回GSTに向けたプロセス全体の手続きやロジスティクス UAE対話(第1回グローバル・ストックテイクのフォローアップ)の進め方 など
6条	6条2項に関する対話★
資金	1.3兆ドルに向けたバクー・ベレンロードマップに関するコンサルテーション★ パリ協定2条1項(c)に関するシャルム・エル・シェイク対話★ など
その他	政府間会議のアレンジメント(AIM)、ほか

★はイベント

SB62の論点や期待されたこと

- 多国間の気候変動国際交渉会議の今後が不透明ななか、**COP30**に向けてどこまで議論を進めていくことができるか。特にCOP29で積み残した課題について各国が協調して議論を進めることができるか
- 気候資金の確保は途上国締約国にとって主要な関心事
 - 資金は議題ではなかったものの、交渉会議のあちこちに現れる
 - ボリビア(LMDC)が提案した資金関連の議題をめぐるアジェンダ・ファイトで、2日間交渉の開始が遅れる
- 2月までに2035年の排出削減目標を盛り込む**次期NDC**を提出した国はわずか。各国の提出を促せるか

会場では

- GHG排出量が多く、一方で資金的にも会議を支えてきたアメリカ政府交渉団の不在の影響は
- アジェンダやイベントの増加—COP会議の持ち方の検討が進められる
- COP30(ベレン)の宿泊確保について、締約国からも懸念の声が上がる
- 加えて、NGO・市民社会からは、市民社会スペースの確保を求める声も